

(1)

会報

No. 8

1985. 11. 1発行

京都府図書館等連絡協議会

事務局

京都市左京区岡崎成勝寺町9
京都府立図書館内
TEL (075) 771-0069

新館紹介

京都市西京図書館

開館 昭和60年8月8日

館長 大山輝美 延床面積 約450㎡

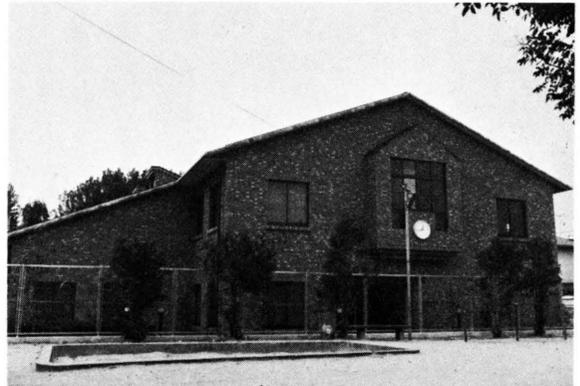
1階が成人図書コーナー、2階が幼児、児童書のフロアで、蔵書は2万冊（一般書1万1千冊、児童書9千冊）で将来4万冊まで増やす予定。

住所 京都市西京区山田大吉見町20-3

TEL 075(392)5558

開館時間 AM. 9:30~PM. 4:30

休館日 毎週火曜日・祝日・年末年始



第一回理事会報告

九月二十五日、府立図書館に於いて、今年度第一回理事会が開かれました。

今回の協議事項は、六十一年度予算への要望について、研修研究委員会及び相互協力委員会報告、京都府南部図書館等連絡協議会の発展的吸収について、委員会の設置について、IFLA（世界図書館大会）東京大会について、日図協個人会員との交流会について等ででした。

六十一年度予算への要望については、昨年同様に府知事を初めとする諸機関に要望書を提出することになりました。要望書の中身については昨年のもので一部手を加えて、予算編成時に合わせて提出することになりました。

研修研究委員会及び相互協力委員会の報告は、別掲のとおり報告があり承認されました。

京都府南部図書館等連絡協議会の発展的吸収については、十分に時間をかけて検討する必要があるということとで保留し、次回の理事会で改めて協議することになりました。

委員会の設置については、新たに広報委員会と研究委員会を設置することが提案されました。このうち、

広報委員会は主に「会報」の編集・発行を担当するもので、ニュースを万遍なく収集するということで、府内を五ブロックに分けて、それぞれから一名と、委員長の計六名によって構成してどうかという提案がされましたが、設置の方向で検討していくことになりました。

一方、研究委員会は、研修研究委員会を研修委員会と研究委員会に分けて、研修委員会は従来通り研修会及び講演会等の企画・立案・実施を、研究委員会はテーマごとに研究グループを作って、調査・研究をしそれを発表していくという案が提案されましたが、十分に検討を要するということと、次回に改めて提案することになりました。

日図協個人会員との交流会は、三月初旬の予定で開催することが了承され、IFLA大会については次回に協議することになりました。

なお、事務局より事務の一部省力化を図るために、公印の一部省略が提案され承認されました。

また、夜久野町より一時的に本会を退会する申し出がありました。これについても承認されました。

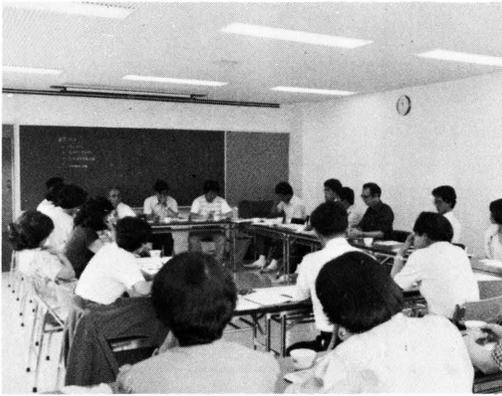


一泊研修会・宮津で開催

今年度の一泊研修会は、去る七月八・九日の両日、宮津の府立青少年海洋センターで、二十一館二十六名の参加で行なわれました。

内容は仏教大學講師小野泰昭先生による、「子供と読書」という講演と、府立図書館渡辺勲氏による「著作権と図書館」の講義、宇治市中央図書館・城陽市立図書館・舞鶴市立西図書館の三館から選書や活動状況についての事例発表がありました。

また情報交換では小図書館での苦労話や、著作権法のため公民館図書室での複写ができないという問題の大きさに対し、善後策をどう講じるかなど夜遅くまで懇談が続きました。



一泊研修会に参加して

▼加悦町では社会教育施設の一環として図書室が公民館内にあります。私は5月1日付をもちましてその図書室の業務にたずさわる様になり、

まだ何分2カ月しか経ておらず右も左もわからないと言った状態で研修に参加しました所、感想文を書く様にとの要請があり、感想文と言える程の物ではありませんが感じた事を少し述べさせて頂きます。

小野先生の講演ですが、小野先生とは同じ町で生まれ、育ち、よく存じていますし、講演も以前に数回聞いた事がありますのでとても親しみやすく聞かせて頂きました。内容については子どもは本を読んでもらう事を好み読み聞かせをする事によって想像力を豊かにしたり、人間の感情を養う事が出来るとの事。又、研修した人達の声として「子どもにつき言っていた、気をつけなアカンな」とか、「いろいろ反省させられる事があった」など。「でも甘い顔をしてはやって行けないし親の方も平気である。親に注意する事は勇気がいる。言葉がけも気をつけて言わないと——」とちょっとびり騒

論も。その他、人員不足の件、資格の件、身分が不安定であり正職員にしてほしいなど、私の知らない面を

多々、勉強させて頂き、交流をもつ事ができました。

加悦町中央公民館は規模も小さくこれから出発点だと言う感じで、各、図書館の活動を聞いていますとたゞ、圧倒させられる事ばかりでしたが、これからも機会をとらえ他の図書館を見学させて頂いたりしながら、いろいろと勉強していき、大勢の方が気楽に来られる図書館づくりに励んで行きたいと思えます。

（加悦町中央公民館 矢野幸子）
▼児童の利用者数が過半数以上を占め、子供達との接触が絶え間ない私にとって、一番の関心事は、小野先生の講義でした。絵本の一面で、想像力をふくらませた経験は、誰にでもあると思いますが、今日のように日常生活がテレビに支配される状況で、子供達はそういう体験を何度することでしょうか。小野先生は、子供が本好きになる条件として、読み聞かせをあげられ、その必要性に言葉体験を豊富にすると話されました。核家族化で、かつての祖父母から語られる昔話や、あの紙芝居のおじさんも懐しい存在となった今、私たち司書も十分言葉体験を豊富にする協力者と成り得ます。「子供は面喰いです。」色鮮やかな美しいものを

好みます。だからこそ、そのイメージを画面にだけでなく、子供たちの頭の中にだけいてほしいのです。同時にそれが、よい本と出会う機会となれば、どんなにすてきなことでしよう。とすれば、私はぜひ子供と本との出会いの窓口をかって出たいと思います。

最後に、児童へのサービス活動一つを取っても、また著作権の問題にしろ、図書館司書とは、数えきれないほどの情報の窓口であるにもかかわらず、たった独りで図書館運営を行なっておられる方には、ショックでした。しかも嘱託の身分です。このことは、図書館司書の専門職の現状を十分考えさせられるのです。（京都市右京図書館 若山浩子）

- ◎ 役員の 変更 ◎
- 理事 新 寺井 硯龍 (京北町中央公民館)
 旧 石浦 喜八
- ◎ 館長の異動 ◎
- 京北町中央公民館 硯龍
 新 寺井 硯龍
 旧 石浦 喜八
- 田辺町立図書館 平勝
 新 吉山 晴
 旧 加藤

研究会のお知らせ

— 南部図書館等連絡協議会 —

○「大阪国際児童文学館」見学会
 六十年十一月二十九日(金)

○障害者サービスについて
 六一年二月(予定)

於 精華町立図書館

にゅうす・ニュース・News

本津町立図書館 —開館十周年・図書館まつり—

本津町立図書館は開館十周年を記念し八月二十六日、二十七日中央公民館で十年の歩みをふり返り本に親しむ住民の輪を広げようと記念式典並びに図書館まつりを開催しました。

二十六日の記念式典には

町長はじめ来賓の御臨席をいただき子ども主婦ら約三百名が参加、平田町長は地域文化の拠点としての図書館の役割りを強調され次いで日頃図書館の環境美化や



援助を続けた三名に感謝状が贈られました。その後図書館まつりの楽しい催しとしてトロッコ工房の人形劇「てぶくろ」腹話術「さるかに話」が展開されました。特に「さるかに話」は昔懐かしい小道具の活用が子どもの目をひき興味深げに見入っていました。

二十七日は親子連れ百七十余名が参加、日本朗読会話連盟による朗読、相楽小・幼育友会コーラス部の合唱、松洋斎万海氏の手品が行われました。会場は楽しさと感動に盛り上がりました。講習会の部では、向日市立図書館長による「和本作り」

(十五名)地元の井上敬子さんの「和紙手芸」(二十名)の二講座で記念行事にふさわしいものでした。

開館十周年の足跡を顧みて図書館は今後ますます住民の大きな期待にこたえる必要があると思われる一方全町民一人ひとりの温かい理解と強いご協力を仰がなくてはならないことを痛感しました。



久御山町公民館図書室の見直し計画まとまる

戦後40年を経て戦争を知らない世代が増えていることから、本を通じて親子で平和の尊さを知ってもらおうと、8/21(8/27)の七日間、前尾記念文庫で開かれた。同市立図書館の本と府立図書館から借りた計460冊で、広島原爆を扱った「おこりじぞう」ベトナム戦争の悲劇を物語化した「ベトナムのダーちゃん」などが展示された。小学生284人、中学生72人、高校生36人、一般180人、計572人訪れた。伴う車庫などを確保するため、現在の図書室及びその北側を約370㎡にわたって増改築。

平和を考えるための子供の本展 宮津市立図書館

見直し計画は、公民館運営審議会が教育委員会に建議した「当面する公民館の見直しについて」を検討し作成したものです。建議書では▼蔵書は住民一人当たり一・五冊、約三万冊を目標とする▼現在の図書室スペースでは、図書の増冊が不可能であり。増改築が急務▼広範囲に貸し出しサービスを図るため、図書館車による巡回が望まれるといった課題が出され、これに添った形で次のような三つの柱を中心に見直し計画をまとめています。

①公民館図書室の増改築
将来の図書増冊に見合う書架室スペースと、移動図書館制度の実施に

②移動図書館制度の導入
町東部の人口集中地域や集落が散在する町の現状を考慮し、広い範囲にわたって図書貸し出しサービスを図るため、図書館車の定期的な巡回。

③図書の購入
住民の読書要求に応えるためには、図書の増冊が不可欠です。「建議書」及び「文部省社会教育審議会」の示す住民一人当たり蔵書基準により、当面、公立図書館の要件である二万冊の確保に努力。

今年度中に増改築工事と、図書館車の購入を行い、来年度、図書室を改装オープンし、同時に図書館車の巡回をスタートする予定です。

専 門 委 員 会 ニ ュ ー ス

相互協力委員会

「地域住民が実際生活に即して必要とする情報は必ず提供する—これは、公共図書館に与えられた本質的機能である。この機能を強化する一つの方策として、設置者の異なる図書館等が相互に協力することが有効である、ということを確認し、その積極的且つ統一的推進をはかるため、図書館相互協力に関する指針をここに定める。」(指針案より)

60年10月11日、府立図書館において、今年度第2回目の委員会を開催し、「図書館相互協力に関する指針案」、「資料の相互貸借実施要領案」及び逐次刊行物の分担保存実施要領案」の検討、協議に入りました。

「指針」は、当協議会加盟施設の共通の理解として、今後京都の図書館界にとって相互協力は必要であるし、また、冒頭に書いた指針案のとおり、地域住民サービスの向上に役立つものである、ということをお互いに確認し合うものとして策定しようとするものです。

「指針」はまた、相互貸借、分担保存など、すべての相互協力活動の拠りどころとしての役割をもたせ、指針に基づいてそれぞれの相互協力の「要領」をつくり、機の熟したのから順次具体化しようとするものです。

今回の委員会では、「指針」及び「相互貸借要領」の検討協議を行いました。一回の協議だけでは問題が大きすぎるという意見もあり、各委員がもちかえり、研究のうえ再度慎重協議することになりました。

今後の予定としては、「指針」及び「相互貸借要領」の試案を印刷してみなさんに配布し、意見を出してもらって再度修正し、理事会、総会での審議決定にもちこめたら……と考えています。 ・次回委員会予定 11月下旬

研修研究委員会

夏休み中の忙しかったカウンターも過ぎ去り、読書の週間を迎える秋となり、図書館でもいろいろと行事が計画される時期になりました。

年度も半ばを過ぎ、実務研修会も後半行事の開催を待っているところです。

前半研修会を振り返って見ますと、5月21日に貸出サービスについての実務研修を始めとして、一泊研修(78・9)、幼児期からの読書について(9/17)と進めてまいりました。

それぞれ、20館30人前後の参加を得まして皆様、熱心に研修に取り組みました。

幼児期からの読書についての研修では、児童文学評論家の渋谷清視氏をお招きして“幼児の為の絵本と文学”と題していろいろ示唆に富んだ研修をいたしました。現在子供の本の世界は商品化時代となっている、そうした中で図書館が所蔵する子供の本には、図書館員がしっかりした選択眼をもたなければならない、その為には、一冊でも多くの本を読む事によって作品評価の力をつけてもらいたいという厳しいお話しの中で、1960年代を第1期とした児童文学の推移から、渋谷先生のブックリストへと進み……今、児童図書は1万点あると思うがその中から基本図書として扱われるのは3500冊から4000冊位迄であるという事を学びました。

- 推薦図書 『子供と文学』石井桃子等著(福音館)
- 『児童文学論』リアン・スミス(岩波書店)

これからの実務研修は、
10/25 一京都家庭文庫地域文庫連絡会と共催の
“古田足日氏講演会”。

- 12月上旬—資料の整理について。
- 2月上旬—京都家庭文庫地域文庫連絡会員と図書館員の交流会。
- 3月上旬—製本技術講習会。
- 3月予定—日本図書館協会正会員と公共図書館員との交流会。

となって居りますので、皆様の参加をお待ちしております。

グリム展など開館1周年記念行事
—宇治市中央図書館—



『グリム童話全集3』高橋健二訳(小学館)より

のを初め、当館所蔵と京都府立図書館から借りるグリムの図書を合わせて約七十冊が展示されます。次に、十一月三日の開館記念日には、当館のサークル「絵本の会」の人達によるお話し会が開催されます。また、記念行事開催中には、当館の開館後一年間の利用状況や活動状況を知ってもらうため、グラフや図表を作って展示されます。

宇治市中央図書館では、十一月三日の開館記念日と、読書週間にちなんで次のような記念行事が計画されています。まず、グリム兄弟生誕二〇〇年に際して「グリム展」が読書週間中に開催されています。この展示会には、グリム兄弟のパネルを職員の手で作ったり、大阪府立国際児童文学館からもパネルを借りる